ユーザー訪問 府中市薬剤師会会営 府中調剤薬局●東京都

“患者のための電子薬歴”の視点で服薬指導支援システム「Navity」を採用

電子薬歴を導入すれば、ペーパーレスで薬歴庫が不要、検索利便性などというメリットが得られる。しかし、「患者さんのために電子薬歴システムを活用できないだろうか――」。そうした視点に立って検討した結果、府中市薬剤師会会営 府中調剤薬局が選んだのが(株)EMシステムズの服薬指導支援システム「Navity」だった。

府中市薬剤師会会営 ひよこ薬局のノートパソコンにも「Navity」が導入された

“患者のための電子薬歴”という視点に立てば、服薬指導を重視したシステムが必要

この10年、大規模公的病院の院外処方せん発行に伴い、その受け入れ機関として地区薬剤師会会営の薬局が各地に設けられてきた。府中調剤薬局(東京都府中市武蔵台)もその一つで、多摩地域で唯一の都立総合病院・府中病院の院外処方せん発行に合わせて、1980年に府中市薬剤師会が開設した薬局である。医薬分業を円滑に遂行すると同時に、府中市内における備蓄センターとしての役割を担ってきた。同薬局と道路を挟んで斜め向かいにあるひよこ薬局も会営で、主に隣接する小児科医院の処方せんを受け入れるため、昨年6月に開設された。

府中調剤薬局とひよこ薬局を合わせると、処方せん応需枚数は1日約250枚、スタッフは薬剤師19人(常勤12人)、事務2人、医薬品の備蓄は1800品目に上る。地域の基幹病院の門前だけに、府中調剤薬局を訪れる患者は慢性疾患を抱えていたり、特殊な疾病の患者や多種多様の薬剤を処方される高齢者などが多く、調剤に時間を要することもしばしばだと、薬局長の薗部誠氏は語る。

「丁寧でわかりやすい服薬指導を心がけていますが、ともすれば時間がかかって、次の患者さんを待たせてしまうことになります。正確な調剤、丁寧な服薬指導、待ち時間の短縮――この3つのサービスを提供することに日々苦労しています」

府中市薬剤師会会営 府中調剤薬局の薬局長、薗部誠氏

これらを解決する一つの手段として、府中調剤薬局は電子薬歴を導入することにした。そこで、同薬局で採用していたレセコンのベンダーに相談したが、提案されたシステムは薗部氏がイメージするものとは違っていた。どこに問題があったのか――。

「一言でいうと、“患者さんのための電子薬歴システム”という視点が欠けていると感じたのです」と薗部氏は指摘する。電子薬歴システムはいろいろなメーカーから発売されており、インターフェイスも機能も様々だ。大きく分けると、紙薬歴からの移行が手軽な「基本機能重視タイプ」と、基本機能だけではなく服薬指導などに役立つツールを多く搭載した「服薬指導(薬剤師)支援タイプ」に分けられる。単なる紙の電子化にとどまるのではなく、服薬指導の質の向上と効率的な運用を支援する機能を兼ね備えてこそ電子薬歴を導入する価値があり、それが服薬コンプライアンスの向上につながっていく、と薗部氏は考えたのだ。

“患者さんのために”――その視点に立って薬剤師会の役員と薗部氏が複数のシステムを検討した結果、白羽の矢を立てたのが(株)EMシステムズの服薬指導支援システム「Navity」である。

問題点ごとにSOAPを記載する方式を採用し、服薬指導を強力にサポートする「Navity」

「Navity」は、現場の薬剤師や薬科大学との意見交換を元に構築されたシステムだ。薬歴の電子化にとどまらず、服薬指導のための多彩な機能を備えた点に最大の特徴を持つ。

薗部氏は「Navity」を「ペーパーレスで薬歴庫が不要など電子薬歴の基本的なメリットに加え、服薬指導をサポートする強力なツール」と位置づけた上で、次のように話す。

「薬物治療の問題解決には、POS(Problem Oriented System)の概念に基づく適正使用業務が不可欠です。POSでは、処方せんに記載された薬剤の医薬品情報を基にして、インタビューで確認すべき患者情報を収集・把握するわけですが、医薬品情報は膨大ですし、指導できる時間も限られています。その点、『Navity』の服薬指導画面では、問題点ごとにSOAPを記載する方式を採用しており、服薬指導文言集を活用すればワンクリックでSOAP欄に登録できます。また、Check欄には引き継ぎ事項を登録でき、次回は画面上部に表示されるため引き継ぎを確実に行うことができ、継続性のある指導が可能です」。

また「Navity」で、きめ細やかに薬剤の安全性チェックができる点も、薗部氏は高く評価している。相互作用チェックはもちろん、患者状態と薬剤のチェックが可能。緊急安全性情報やメディア情報を登録し、指導時にポップアップで表示させることもできる。その上、「Navity」は、患者が訴える症状から原因となる処方薬を探し出す「副作用の逆引き検索機能」も搭載。医薬品情報データベースも充実しており、更新情報はオンラインで随時提供される。さらに病気や検査の解説、身体の仕組みなどのイラスト入り情報をプリントアウトして患者に渡すことも可能だ。「バイタル・検査情報を簡単に登録でき、それらのデータを指導面で活用できるのも『Navity』の魅力の一つ」(薗部氏)

府中調剤薬局とひよこ薬局のノートパソコン計16台に「Navity」を導入し、EMシステムズのレセコン「Recepty」とも連携させている。本格稼働は今秋の予定だが、「『Navity』の活用で、充実した服薬指導ができそうです」と薗部氏は期待している。